

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
人権教育	<p>1 生徒や教職員がそれぞれ一人ひとりを大切に、皆が常に思いやりの心をもって、互いに尊重し合い、信頼し合うより良い人間関係をつくることにより、人格の形成をめざします。</p> <p>①人権教育のより一層の推進を図り、生徒自らが生活を見直す中で、自己の課題に気づき、仲間と共に、差別をなくす意欲と実践力を身につけた、自他を大切に人権感覚豊かな人間を育成します。</p> <p>②校内人権活動の成果を基盤にしながら、どの生徒も自己実現ができるように、教職員も新しい状況に対応した研修に努めます。</p>	<p>①県教委の「みんなでつくる人権教育推進事業」を受け、11月の公開人権 LHR に向けた活動を柱に取り組んだ。</p> <p>②生徒の人権委員会(30名)で「様々な立場の人との豊かな出会いを求めて」をテーマに取り組んだ7月の人権フィールドワークは「リバティおおさか」に行った。事前学習では、テーマを深めるために実習先の「語りビデオ」について学習し、鑑賞するビデオの選定を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを追求する創作ビデオ「伝えられた思い」の制作を人権委員中心に行った。 ・公開人権 LHR の教材としてマンガ「人権職場ビュー」を生徒の目線で制作した。 ・PTA との共催で人権講話「障がい者が働く職場」を三重データクラフトの樋廻道雄さんにお話をしてもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「高校生の目線から出発する人権委員会活動」をめざしてきたが、今年度も取り組むことができた。 ・生徒が人権課題を自らの問題として捉える過程を映像表現として発表する体験ができた。 ・「人権職場ビュー」はより広い生徒の関心を引き出すことができたが、その活用方法には改善の余地があることがわかった。 ・公開人権 LHR (含公開授業)によって人権尊重の視点での外部参加者からの的を得たアドバイスを受けることができた。 ・人権講話の取り組みで本校の人権教育活動を保護者に知ってもらい、また、その趣旨を広めることができた。
キャリア教育	<p>2 生徒が卒業後に出会うであろう様々な社会環境の中で生きていくために必要な力とは何かを明らかにし、その力を付けさせるための活動を実践検証して常に改善に努めていきます。</p> <p>①「職業理解能力」や「職業選択能力」を付けさせるためにインターンシップを計画的・組織的に実施します。</p> <p>②「基礎・基本の学力」を付けさせるための取り組みを「組織的・系統的」に再構築し、実践検証しながら「キャリアアップテスト」・「基礎学力テスト」を実施します。</p> <p>③「計画実行能力」「意志決定能力」を付けさせるための活動のあり方や進め方について、引き続き協議・検討を行います。</p> <p>④学習指導要領の改訂をもふまえ、本校の特色ある学校づくりに向けた教育課程の改編を行います。</p>	<p>①8月上旬から中旬にかけて、2年生の希望者29名が、12の事業所に於いて、インターンシップを実施した。また、「地域産業担い手技能者育成事業」に1、2年生の希望者8名が参加した。</p> <p>②今年度入学生より、基礎・基本の学力を付けさせるため、週3回の「キャリアアップテスト」・年間5回の「基礎学力テスト」「同、追試」を実施した。2年生3年と進級しても、よりバージョンアップした取り組みを続ける計画をしている。</p> <p>③在校生と卒業生との懇談会を6月7日(月)に卒業生25名を招聘して実施した。3年生には就職希望と進学希望に分けた外部講師による進路ガイダンスを実施、1、2年生には進路指導部講和を実施した。工場見学は3年生だけでなく、機械科1年生でも実施、また建築科2年生において現場見学を実施した。</p> <p>④教務委員会において新しい教育課程を中心とし、今後の本校の教育のあり方について検討を重ねた。また各教科において授業改善や教育活動の進め方について検討を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度から実施したインターンシップにおいてアンケート結果は良好であり、次年度も、発展的に実施したい。 ・SHR などの時間を利用して、キャリアアップテストを実施した、試行錯誤もあったが軌道に乗った。成果を検証しつつ、実施方策を改善していきたい。 ・進路ガイダンス等の実施について、生徒へのアンケートでは9割強の生徒は時間や回数には満足している。しかしながら、内容の充実と浸透を図っていく必要がある新たな試みの導入と検証を今後も進めていく必要がある。 ・今後も新しい教育課程について、その方針と内容を明確に決めていく必要がある。その上で読解力・コミュニケーション能力などをいかに身につけさせ、本校の目指す生徒づくりを進めるかを検討しなければならない。

<p>学校 評価</p>	<p>3 生徒や保護者が「伊勢工業高校に入学して良かった。」と思う、教職員が「伊勢工業高校に勤務して良かった。」と思う、地域の人々が「伊勢工業高校は地域にとって必要な学校である。」と思う、そのような学校づくりをめざします。</p> <p>①本校の生徒に求められる「能力」の検証と検証方法の検討を行います。</p> <p>②本校在学中に身に付けるべき「能力」についての追跡調査等の実施を検討します。</p> <p>③「学校関係者評価」の実施に向けて調査研究を行います。</p>	<p>○進路の保証に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導計画を5月上旬に策定、職員会議にて周知徹底を図った。 ・県内外の企業訪問を5月に実施し、30社あまりを訪問。 ・夏休みを中心に各種進路説明会やオープンキャンパスの活用を勧め、志望校決定につなげた。 ・(ア)夏休み進路補習の実施 <ul style="list-style-type: none"> (イ)定期考査時に一般常識テストを合わせて実施 (ウ)全職員による面接指導の実施 (エ)各学年に応じた進路指導部による説明会の実施と「進路だより」による情報提供を実施 <p>○生徒に付けるべき力として、当面は「基礎・基本の学力の向上」に絞って取組を行った。</p> <p>○「学校関係者評価」については、試行実践校の取組を参照し、学校評議員会との整合を図った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導計画を着実に実践して、評価・改善に努め、生徒の高い満足度を維持していく必要がある。 ・進路結果に関する進路アンケートの回答では満足度は、「希望通り：40%（前年比+2%）」「まあまあ満足：50%」で約9割の生徒が、進路先に満足している。 ・進路保障100%を目標に全職員全力を挙げて、さらなる努力と工夫を継続していく。 ・夏休み進路補習の実施に関する進路アンケートの回答では、75%の生徒が補習時間について適当であるとの回答を得ている。又、面接指導の練習時間に関するアンケートの回答も、72%の生徒が適当であると回答している。 ・ほぼ生徒のニーズに答えているが、個々の細かいニーズに対応していく対策も必要である。 ○「基礎・基本の学力」をつけさせるために、キャリアアップテストのバージョンアップに努めるとともに、読解力、コミュニケーション能力の向上に向けた取組を進めていく必要がある。 ○「学校関係者評価」については、次年度の試行を経て、平成24年度から本格実施となる。
<p>平成 21 年度 の評 価結 果を 受け ての 改善 目標</p>	<p>1 教職員間の対話の促進</p> <p>①教職員間の対話をとおして、学校の目指す姿についてより具体的に明確化し、共有化したうえで、その実現に向けて取り組みます。</p> <p>②教職員間の対話を促進することにより、教職員組織として必要な同僚性の醸成に努めます。</p> <hr/> <p>2 生徒の「生きる力」の育成</p> <p>①基礎学力や読解力・コミュニケーション能力など、本校の生徒に必要な力を付けさせるために、授業や教育活動のあり方、進め方などについての検討を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な対話や課題発生ごとの検討・協議に加え、「教職員育成支援システム」や「過重労働報告システム」などの仕組みを活用して、本校の教育目標の共有と実践・検証を行った。 ・今年度入学生より、基礎・基本の学力を付けさせるため、週3回の「キャリアアップテスト」・年間5回の「基礎学力テスト」「同、追試」を実施した。2年3年と進級しても、よりバージョンアップした取り組みを続ける計画をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらなる対話の促進に加え、自律性、自発性、同僚性をさらに向上させることによって、組織文化・組織風土を高めていく。 ・SHRなどの時間を利用して、キャリアアップテストを実施した、試行錯誤もあったが軌道に乗った。成果を検証しつつ、実施方策を改善していきたい。 ・新しい教育課程について、その方針と内容を明確に定めていく必要がある。その上で読解力・コミュニケーション能力などをいかに身につけさせ、本校の目指す生徒づくりを進めるかを検討しなければならない。

<p>3 地域との連携強化による開かれた学校づくりと特色ある学校づくり ～伊勢工業高校の存在意義を高めるために～ ①地域関係者（地元自治会、地元企業・関係機関、小中学校）との連携強化に向けて、各種行事やイベントに積極的に参加します。 ②小中学生に「ものづくり」の楽しさを伝える活動に取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高柳の夜店（6月21日、23日） ・出前授業（伊勢市立東大淀小学校、6月28日） ・出前授業（伊勢市立北浜小学校、7月2日） ・勢田川七夕大そうじ（7月4日） ・タイ来日団訪問（8月20日） ・伊勢まつり（9月25日、26日） ・伊勢市環境フェア（10月10日） ・伊勢茶スイーツ&伊勢茶フェア（11月7日） ・ポーランド来日団訪問（11月19日） ・地デジボランティア活動・学習会（2月21日） ・教員による企業見学会（3月2日、4日） ・厚生中学校「匠に学ぶ」（3月15日） など 	<ul style="list-style-type: none"> ・工業高校の最大の特徴である「ものづくり」、その大切さを伝える活動を積極的に展開した。これらの活動が各種メディアで紹介されることにより、伊勢工業高校の存在を広く知らしめることができた。2月には県知事から「率先実行大賞」を授与されるなど、本校の活動が広く認められた。 ・今後も、活動内容を精査しつつ、より有意義な活動に昇華させることにより、「ものづくり」の楽しさを幅広く伝えていきたい。
<p>4 会議（委員会等）のあり方、進め方についての検証、改善 ①平成21年度に行った委員会の精選や審議手順の変更などについて検証を行い、改善を図っていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・審議手順の簡素化を徹底することにより、校務運営委員会での協議題が減少し、時間短縮につながった。 ・朝の職員打ち合わせを週2回（週初めと水曜日）に設定することにより、職員会議での連絡・報告事項が減少し、時間短縮につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーチンワーク的要素の強い事項については、協議題ではなく、連絡・報告レベルに移行させたい。 ・同時に、朝の職員打ち合わせでの連絡・報告を徹底させることにより、職員会議の開催回数を減少させたい。

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none"> ・「本校も社会の一員」という意識において、地域への意欲的・積極的な情報発信や連携を行っており、その取り組みが掲示板やサーバーの活用により情報の共有ができており、校内で一部の取り組みからその協力範囲が拡大している。 ・校長が職員との面談などで対話の時間を多く持ち、話せる環境ができています。また、オフサイトミーティングなどにより、各職員の意見に耳を傾け、職員間でも対話の場が増え情報や意見の共有化がすすんだ。 ・特別な指導や配慮を必要とする生徒への対応に、職員が積極的に取組んでおり、組織で検討し協力する体制ができています。
弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に付けさせたい力や能力の思いが強く、生徒の満足度や要望などの吸い上げが不足しているとともに、その客観的な分析が少ない。また、地域や保護者に対しても意見を聞く機会が少ない。 ・仕事の片寄りが多く、多くの業務を抱えている人が数人いる。また、多忙感があり、大切なことが後回しになることがあると感じる職員もいる。周囲の人もそれを感じていることから、協力や仕事の分担をしてもいいと思っている人を活かしていない。

(3) 組織力向上のための取組（改善策）

次年度に向けた取組
<p>①平成20年度から平成22年度までの3年間の活動の成果と課題を検証して改善することにより、さらなる質の高い活動へとつなげていきます。 →【検討課題】生徒の満足度や要望、地域や保護者からの意見の聴取方法についての検討・協議</p> <p>②本校の特色ある活動が具体的に動き出していますが、動き出しの時期はどうしてもパイオニアとして一部の職員に負担がかかってしまいます。活動が動き始め、その具体的内容が明らかになっている現在、気が付いた人、その気のある人から、それぞれの活動に協調的かつ積極的に取り組んでいくことが、学校全体の活動に昇華させる上ではとても大切です。縦割り意識や無関心に陥ることなく、全職員が協調して「自ら気づき、考え、行動する」組織文化を創造します。 →【取組課題】職員の自律性、自発性、同僚性の醸成</p>